

# 新グループホーム いよいよ着工



同和会では、現在、3つのグループホームを運営しています。  
第1号の「シェルホーム」は、民間のアパートの一室を借りて、1998年(平成10年)に開設しました。第2号、第3号の「グリーンハイツ(I・II)」は、職員寮があったところを改築して、2000年(平成12年)に開設しました。

そしてこのたび、土地の提供や船橋市からの補助金などを得て、医療法人同和会4番目のグループホームを建設することが決定いたしました。

4月17日には、船橋市障害福祉課職員立会いのもと、当院研修室にて公開入札会が行われ、伊藤建設(株)が受注。5月9日には地鎮祭が執り行われ、秋ごろの開所を目指して、現在建設中です。



千葉病院広報紙 2015. 初夏号(第49号) 発行者 医療法人同和会 千葉病院



# あおぞら祭りのご案内

千葉病院恒例のイベント、あおぞら祭りを今年も開催します。  
初夏を感じるこの季節に青空のもとで、焼きそば・ミニゲーム・吹奏楽や太鼓などの催し物を計画しておりますので、是非、ご参加下さい。

日時：6月13日(土)

会場：同和会千葉病院 お祭り広場

※雨天の場合、会場が屋内に変更となります

近隣の皆様には、音楽などでご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご了承ください



写真は昨年のおおぞら祭りの様子



～ 最善の行動と信頼 ～

## 医療法人 同和会 千葉病院

### 【病院概要】

- 診療科  
精神科・神経科・歯科(要予約)
- 院長  
小松 尚也
- 外来診療時間  
平日9:00~12:30(月曜日のみ9:30~12:30)  
土曜日9:00~12:30(午後は予約制)
- 休診日  
木曜日・日曜日・祝祭日・6月1日(創立記念日)
- 所在地  
〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-508  
TEL: 047-466-2176 FAX: 047-466-7503  
ホームページ: //www.chiba-hpon.arenane.jp
- 千葉県認知症疾患医療センター  
TEL: 047-496-2255 FAX: 047-496-2256



### 千葉病院 患者様の権利

- ①個人として、人格およびプライバシーが尊重されます。
- ②安全な環境で、可能な限りの良質な医療が提供されます。
- ③職員のいかなる行為に対しても説明を求め苦情を申し立てることができます。
- ④精神保健福祉法に則った医療および処遇が保障されます。
- ⑤職員から思想・信条・宗教および個人的関係は強制されません。
- ⑥個人情報保護されます。

発行: 医療法人同和会 千葉病院  
発行日: 平成27年6月5日  
住所: 千葉県船橋市飯山満町2-508  
TEL 047-466-2176 Fax 047-466-7503  
URL: //www.chiba-hp.on.arena.ne.jp/

### 編集後記

千葉病院初夏を彩る「青空まつり」。昨年は梅雨の合間にもかかわらず晴天に恵まれ、文字どおり「青空」のもと、大変賑やかなイベントになりました。今年も昨年以上の賑わいとなるよう、レクリエーション委員会を中心に準備しておりますので、ご参加いただければ幸いです。

# 当院から地域へ 地域から当院へ

当院が誇る自助活動施設「ふえにつくす」にも、ボランティアでお手伝い・支援をいただいている方がいます。今回は、そのボランティアの方をご紹介します。

梅岡敏子さんは、2年前から毎週金曜日、「ふえにつくす」でボランティアで活動されています。20年以上のボランティア活動歴をもち、ヘルパーの資格もお持ちの梅岡さん。「ふえにつくす」では、洗い物など、メンバーさんの喫茶活動のサポートが主な仕事です。もともとは、梅岡さんが所属されているボランティアサークル『船橋心のボランティアおおぞら』に、千葉病院から支援の依頼があったのがきっかけでした。『おおぞら』から、は梅岡さん以外にも複数のボランティアさんが活動に参加していただいています。

写真:「顔出しはちょっと…」とシャイな梅岡さんの笑顔が見たい方は、金曜日にふえにつくすまで！



「ふえにつくすは、メンバーも利用者も、(飾ることのない)素の自分が出せる場だと思います。こういう場があることがもっと地域の人々に知られていき、お客さんが来てくれるとよいですね」と、梅岡さんは笑顔で話してくれました。(編集部)

千葉病院Drによる医療コラム 第20回

## 精神科リハビリテーションについて その2

千葉病院医師 湯浅 稚子

今回は、病院で行うリハビリテーションについてお話ししたいと思います。入院治療でも外来治療でも、病状がとても重い時期(急性期)は、しっかりした安静と休養が必要であり、リハビリテーションは行いません。お薬の治療により少しずつ病状が改善してきたところで、薬物療法と並行して、リハビリテーションを開始します。病状が回復する時期は、疲れやすかったり、集中が続かなかったり、とても緊張したり、引きこもりがちになったり、生活リズムが乱れやすかったり…と、精神活動が低下しています。できるだけ早く、病状に応じたリハビリテーションを始めることで、このような病的状態からの回復を促し、慢性化を防ぐ効果があります。

作業療法(OT)では、簡単な作業活動や身体活動を通して、精神活動の回復や、人とのコミュニケーションの回復を図ります。

社会生活技能訓練(SST)は、日常生活を送る上で必要な技術を練習することが目的です。人とのコミュニケーションの練習、病気と上手く付き合う練習、患者さん数名と医療従事者でグループになって行います。

心理教育では、病気の知識と理解を深めることで、治療を継続する意志や意欲を高め、病状の再燃を防ぎ、安定させていく効果があります。患者さん本人だけでなく、患者さんを支えるご家族にも心理教育を行うことでより効果があると言われています。

病状が安定する時期(維持期)には、社会生活へのステップアップするための場として、精神科デイケアがあります。日中の活動を保つため、就労に向けての準備のため、など目的を持って集団活動を行い、社会性を高める効果が期待できます。

このような精神科リハビリテーションは、医師・看護師・心理士・精神科ソーシャルワーカー・薬剤師・栄養士など、様々な職種が1つのチームになり、患者さんやそのご家族をサポートしながら行っています。

ここは千葉病院の活動を紹介するコーナーです

# 退院支援への取り組み

7病棟 錦織正樹

昨年4月に、精神保健福祉法が改正され、退院支援について新たな制度なども設けられました。その制度改正も踏まえ、当院での「退院支援」への取り組みについて、連載しております。

第4回目となる今回は、当院の療養病棟(亜急性期病棟)における退院支援の実際について報告いたします。

7病棟(亜急性期病棟)での、退院への取り組みについて少し紹介させていただきます。

千葉病院での亜急性期病棟の最も重要な役割のひとつが“より良い退院への支援”と考えています。ひとりひとりの患者さんに合ったより良い退院について、患者さんと共に考えスタッフ一同でお手伝いさせて頂いております。

……取り組みの実際では、《他部署との連携》が大きな特徴です。……

### 退院促進会議

看護師、ケースワーカー、作業療法士などでチームを組んで、それぞれの患者さんについての情報を交換しどんな支援が必要かを話し合っています。患者さんの一番身近でお世話させて頂いている看護師が調整役となっています。

### 作業療法

楽しい時間を過ごしたい、退院後に役立つことを身につけたいなど、それぞれの患者さんに合うようなプログラムを用意しています。もちろん退院後も継続される方もいらっしゃいます。

### 社会復帰科(ケースワーカー)

社会資源の活用や経済的なことなど退院後の生活基盤といったことへの支援をさせて頂いております。退院の準備段階はもちろんのこと、退院後まで幅広くお手伝いさせて頂いております。

### 訪問看護相談室

退院してもまだちょっと不安、そんな患者さんには看護師やケースワーカーがお宅を訪問させて頂き、生活へのアドバイスや時には話し相手になったりと。退院前よりお宅へ訪問させて頂き、患者さんや御家族と共に退院の準備を進めることもあります。

その他、薬剤師、栄養士、デイケアスタッフなど様々な職種がお手伝いさせて頂いております。こういった様々な職種のスタッフを上手に活用して頂くことが、それぞれの患者さんに合ったより良い退院へ繋がると考えております